

家庭医からER医まで 高齢者に寄り添う診療 学ぼう Geriatric Mind

著：許 智栄（神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター）

監修：有吉 孝一（神戸市立医療センター中央市民病院 救命救急センター長）

どの診療ステージでも応用できる、 今の時代の高齢者診療のマインドセット

日本の老年医学ほど、学習者のニーズと指導者からのサプライのミスマッチが大きい分野は他にないのではないかと^{*1}。渡米して初めて、日米の老年医学に対する価値観の違いを痛感した。所属するハワイ大学医学部では、消化器内科や整形外科実習は選択科目であるが、老年医学は必須科目となっている。また卒後研修では、内科や家庭医でも必須科目である。さらに老年医学や緩和ケアフェローシップの進路も用意されていることから、学問として成熟し、臨床研究の土壌もしっかりあることがわかる^{*2}。著者は、そんな全米屈指の老年医学フェローシップで研鑽を積み、「救急現場から高齢者診療のマインドセットを見直してほしい」と訴えている。この訴えには、米国でホスピタリストとして勤務する私も大いに共感できる。なぜなら、せん妄、フレイル、転倒、サルコペニア、頻回の再入院、介護疲れ、うつ、終末期ケア、アドバンス・ケア・プランニングは、ホスピタリストとして毎日扱うからだ。

米国ハワイ州で内科レジデントをしていた私は、当時、老年医学フェローをしていた著者と家族ぐるみで交流する機会があった。私の兄と同世代の彼を、兄貴分として頼りにさせてもらった。いつでもアラモアナビーチパークでバーベキューができるようにと、カルビ肉を漬け込んで常時冷凍庫に仕込んでいた彼の焼肉を、何度も食べさせ

てもらった。そんな懐の深い彼の人が、本書で何度も垣間見える。高齢者診療の難しさを認め、苦勞に共感しながらも、たくさんの語呂合わせ、歴史的逸話、上質なエビデンスを提供して、読者が陥りやすいピットフォールに注意喚起しながら、苦手意識を克服しよう！ というエールが伝わってくる。

総論（アプローチ）では、高齢者の訴えや疾患の表現型が非定型であることを強調しており、医学部時代に学んだ「病態生理と症状が一致するだろう」という思い込みで診療することの危険性に警鐘を鳴らしている。Geriatric giants, frail, CGA, illness trajectory, CAM, ACP など初耳の英単語に戸惑う読者もいるかもしれないが、これこそが老年医学の学問としての歴史の産物であり、知っているのと知らないのとでは、診療態度からマネジメントまでまったく変わってくることを強調したい。

さらに、本書は通読して意識改革をするのに役立つだけでなく、これから総合診療を指導する医師にとって教育ツールとしても役立つ。豊富な語呂合わせや図表のフレームワークは、いわゆる Chalk talk とよばれるベッドサイド教育の参考になる。章末の引用文献のなかでも、オススメ文献はさらに青字で強調されているのもありがたい。

著者の勤務スタイルは忙しい救急現場を主軸にしているが、本書から読み取れる哲学としては、「辛抱強さ」



金芳堂

4,180円（本体3,800円＋税10%）

A5/220頁

ISBN 978-4-7653-1830-3

「対話」「注意深さ」がみえる。救急現場が高齢患者との初顔合わせとなったとしても、家庭環境、生い立ち、予後などのナラティブな部分に「想像力」を膨らますことが大事であることを、根拠をもって述べている。そういった意味で、本書は他に類をみないインスピレーションを与えてくれるだろう。

著者は、日本で救急医療のトレーニングをしたのちに、渡米して家庭医療学と老年医学を体系立てて学び、帰国した。個人的な予想では、パイオニアの老年内科医として、診療所、老健施設か病棟勤務をするものだと思っていたが、まさかまた救急医に戻るとは意外だった。しかし本書を読むと、彼の伝えたい論理はどの診療ステージ（外来、救急、病棟、ICU、在宅）でも応用できる普遍性をもつことが理解できる。臓器別教育、臓器別診療がいまだに根強い、そんな時代に本書に出会える読者は幸運だと思う。

（クイーンズメディカルセンター
ホスピタリスト 野木 真将）

*1 Nishijima TF, et al. Landscape of education and clinical practice in geriatric oncology: a Japanese nationwide survey. Jpn J Clin Oncol 2019; 49: 1114-9. PMID: 31723978

*2 ハワイ州は全米一の高齢化率とアジア圏からの移民が多いことから、Honolulu Heart Programをはじめとする日系人高齢者の大規模コホート研究が有名なはその一例である。